

# 発足25周年にあたって



みなと銀行 代表取締役社長 武 市 寿 一

## 巻頭言

1999年4月に発足したみなと銀行は、この4月に25周年の節目を迎えることができました。これもひとえに、お客さま、地域の皆さまの支援の賜物と、役員一同深く感謝いたしております。改めて25年間支えていただきました皆さまに感謝申し上げます。

当社発足時の兵庫県は、1995年に起きた阪神・淡路大震災の傷跡を大きく残しておりましたが、震災から29年の年月を経て復興を果たし、足元では新港突堤西地区におけるアーリーナの建設や、三宮における西日本最大級のバスターミナルの整備など、大規模な再開発が多数予定されるまでになっております。また、2025年には大阪・関西万博、2030年には神戸空港に国際線が就航するなど、兵庫県の魅力、存在感を高める大きなイベントが続き、今後さらなる発展が期待できます。

当社発足来、「地域金融機関として」「地域のみならず」とともに歩みます」という経営理念の下、地域経済やお客さまのお役に立てるよう努めてまいりました。発足時に比べ、預金量、貸出量ともにおよそ2倍となり、県内における貸出金、メインバンクのシェアも上がりました。このように地域でのプレゼンスを向上できたのは、兵庫県全域を網羅した唯一の金融機関であること、そして、金融の枠を超えて地域のお客さまから求められている課題の解決に取り組んできたことにより、地域

になくはならない金融機関に向けて着実に歩みを進めているものと自負しております。

当社は昨年5月に、りそなグループ共通のパーパス「金融+で、未来をプラスに。」を公表しました。金融の枠にとどまらず「金融+」の発想で、皆さまの困りごとに多方面からお応えするという思いが込められています。こうした思いを具現化すべく、金融サービスはもちろんのこと、金融以外の事業でもお客さまの課題解決に貢献する取り組みを増やしています。具体的には、デジタルトランスフォーメーション（DX）人材や幹部人材をつなぐ有料職業紹介、企業の第二創業に向けた事業承継予定者向け支援事業のほか、シニア向けには金融面、生活面の見守り、高齢者施設の紹介事業なども手がけています。

本年度は、当社にとって、3つの大きな変化があります。4月から関西みらいフィナンシャルグループからりそなホールディングスの子会社になったこと、またシステムをりそなグループのシステムに統合すること、そしてマイナス金利政策が解除され金利のある世界へ踏み出したことです。これらの変化をしっかりとプラスに変え、県内でもより独自性を発揮し、地域やお客さまの課題を解決してまいります。今後とも、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。